

<b>1 学校教育目標</b> 校訓「自律」の精神を培い、知・徳・体のバランスを高め、社会に貢献できる心身ともに健全な清々しい人間を育成する。	<b>2 本年度の重点目標</b> ①新学習指導要領の理念に対応した主体的・対話的で深い学びの実現及び授業改善による生徒の基礎学力向上 ②特色ある授業や特別活動の実施、部活動の奨励による生徒の「志」の育成と活力ある学校作りの推進 ③3年間を見通したキャリア教育の推進、夢や目標への「志」の育成と進路実現の支援 ④豊かな心を育み心身の健康を増進するための支援体制の充実 ⑤保護者や地域、中学校との連携による広く共感と信頼を得られる学校作りの推進
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価					
①新学習指導要領の理念に対応した主体的・対話的で深い学びの実現、授業改善による基礎学力の向上					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●学力の向上	・新学習指導要領に対応した「できる授業」の実践	・新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びの実現に対応した「できる授業」の授業実践を行う。	・「できる授業」に係る研修会を年1回以上開催する。 ・PDCAサイクルを意識して授業週間や授業研究会を年2回開催し、授業改善に努める。 ・毎時間又は単元終了後に振り返りを行い、生徒の授業満足度80%を目指す。	教務
	○教職員の指導力向上	・きめ細やかな指導体制の確立  ・ICT機器の利活用推進と効果的な指導方法の研究	・教員同士が協働できる体制作りと本校らしいカリキュラムの構成に努める。  ・ICT機器を効果的に利活用した科目を、年間で10%向上する。	・カリキュラム委員会を月1回以上開催する。 ・アンケートを生徒・保護者・教員を対象として年2回実施する。 ・PDCAサイクルを意識してアンケート結果を基に次年度のカリキュラムの改善に活用する。 ・各教科で、効果的な指導方法の研究を行う。 ・校外のICT研修や公開授業への積極的な参加を促す。 ・ICT通信を発行し、職員・生徒のスキル向上・知識の習得を図る。	教務
②特色ある授業や特別活動の実施、部活動の奨励による生徒の「志」の育成と活力ある学校作りの推進					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●志を高める教育	・特別活動の充実  ・部活動の奨励と充実	・佐賀への愛着を育み、よりよい人間関係を築く態度を育成する。  ・部活動実施状況を正確に把握する。 ・目標達成への努力や達成感による自己実現できる場の整備を行う。 ・部活動をして、挨拶やフェアプレー精神、道具を大切にすることなど人間力の育成を図る。	・佐賀語りの利用や佐賀に纏わる講演会の実施を通して佐賀への愛着心を育てる。 ・グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを意識した授業を実施する。 ・部活動計画及び実績報告を確実に提出する。 ・活動報告等を利用し、個人の参加を把握する。 ・大会日程、結果等の情報を積極的に発信する。 ・各部部长と定期的な連絡会を実施し、部活動の活性化に繋げる。	教務
	○グローバルな人材の育成	・体験的な学習活動の充実  ・国際交流事業の推進	・「体験授業」や「郷土学習」などの授業を通して、郷土に対する愛着を育み、コミュニケーション能力を育成する。  ・台湾との国際交流事業の実施を通して、国際感覚を身につけるとともに多文化理解の態度を養う。	・地元企業や農家での「体験授業」を通して、働くことの意義やコミュニケーションの大切さを学び、「郷土学習」においては、地域の歴史に触れることで学校がある地元への愛着心を育てる。 ・事前授業など周知の準備を行い、積極的な態度で交流に参加する。 ・報告会を実施し、国際交流を通して学んだことやコミュニケーションを図ることの大切さを全生徒へ伝える。	教務
③3年間を見通したキャリア教育の推進、夢や目標への「志」の育成と進路実現の支援					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○キャリア教育の推進	・進路指導のマッチング  ・進路希望の実現	・進路啓発研修や進路講話を適切な時期に実施する。  ・生徒の希望と適性に応じた進路指導を行い、就職内定・進学合格の100%を目指す。	・各学年に応じた進路啓発研修や講話を年に1回実施する。 ・各学年に年2回進路希望調査を実施する。 ・企業のPRシートやパンフレットを閲覧し易くするための進路資料室内のレイアウトを工夫する。 ・3年生と進路面談を6月までに全員に実施し、生徒の進路動向を把握し、就職(福祉的就労)、進学希望者に必要な情報提供を随時行う。	進路指導
	○通級指導の実践	・自立活動の理解と実践  ・計画的な情報発信の実践	・自立活動に関する基礎知識について、全職員の90%の周知率を目指す。  ・校外で2回以上の事例発表、内容紹介などの機会を設定し、通級指導について情報発信する。  ・自立活動担当職員の実践力を向上させ、自立活動選択者の授業満足度90%をめざす。	・毎月1回以上の通級指導委員会を開き、授業内容や生徒の変化を共有する。 ・全職員向けの研修会を年に最低1回は行う。 ・校外からの依頼に積極的に応じることで発信の機会を確保する。 ・文科省の研修や県内の通級担当者会議への参加率90%以上を目指し、レベルの高い研修で研鑽を積む。	教育相談
④豊かな心を育み心身の健康を増進するための支援体制の充実					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重する態度の育成	・生徒にとって学校が安心・安全な場所として認識され、自分のことが好きになるような働きかけをする。	・生徒・教師間の信頼関係を築くように努める。 ・客観的な検査指標であるQ-Uを用いて自分のことを理解するためのフィードバックする時間を設ける。 ・Q-Uを利用して、生徒理解を進め、校内連携や支援体制の充実を行う。	教務 教育相談
	●いじめの問題への対応	・いじめ問題の未然防止  ・いじめ問題への組織的な対応力の確立と実践	・生徒が周囲の人間と信頼できる関係を持ち、規律正しい態度で学校生活に参加・活動できるようにするとともに、いじめに向かない態度を育成するよう授業づくりや集団作りを行う。 ・「学校いじめ対策委員会」を設置し、事案への対応を的確且つ迅速に行う。	・学校生活アンケートを年3回実施し、いじめの未然防止及び早期発見に繋げる。 ・面談週間を設け、担任による個人面談を行う。気になる事案に対しては学校関係者、保護者、スクールカウンセラー等と情報を共有する。 ・PTA総会や集会などを通じていじめの重大さや防止の重要性などについて理解を深めるよう啓発活動を行う。	生徒指導
⑤保護者や地域、中学校との連携による広く共感と信頼を得られる学校作りの推進					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成	・自己の健康に気を配り、体調管理ができる生徒を育てる。 ・ゴミの適切な処理に留意させ、校内美化を推進する。 ・食育を推進し、朝食摂取率が75%を超えるようにする。	・毎朝の健康調査を通して、自己の体調の変化を把握できるようにする。 ・ゴミの持ち帰りに関するポスター作りや声掛けを行う。 ・朝食アンケートを実施する。また、学校通信などを利用して朝食をとることの意義を呼びかける。	保健
	○広報活動	・魅力的な情報の発信  ・志願者、保護者の学校理解	・HOT通信の充実と刷新を図る。 ・学校HPの充実と月1回の更新を行う。 ・学校説明会・体験入学の参加者を前年度より10%増やす。 ・PTA活動への保護者参加率を5%向上させる。	・HOT通信月2回発行の維持と情報の収集を行う。 ・学校説明会の広報に努め、保護者・生徒の知りたい情報を発信する。 ・体験入学では、学校設定科目を中心とした特色ある授業の体験で本校理解につなげる。 ・PTA行事の保護者への周知に努め、学校・保護者・地域と連携しながら学校活性化を推進する。	教務
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の業務改善の推進  ・年次休暇の積極的な取得推進	・学年及び校務分掌業務の2割削減を達成する。  ・年次休暇の取得率向上を目指し、10日以上取得を達成する。	・職員会議や朝礼等を利用し、「働き方改革」の周知徹底し、改革に対する教職員の意識の醸成を図る。 ・学年・校務分掌ごとに業務の洗い出しと見直しを実施することにより、全体で2割以上の業務や行事の削減を行う。 ・業務の平準化を推進することにより、年休が取得し易い職場環境の整備を行う。	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目